



連合三田会 この記念館も今年で最後…



ボーリング大会



春の懇親会 (総会)

北区三田会へのイベントに
参加しませんか?



春の懇親会でJAZZを堪能しました



北区の紙の博物館を見学



荒川でバーベキュー



慶應義塾大学バスケットボール部を応援

- ⑨ 18. 09. 18 (月) パノラマプールで水中散歩
- ⑩ 18. 10. 22 (日)
関東大学バスケットボール1部リーグ 応援 (対早稲田)
早稲田大学に快勝、リーグ優勝は逃すものの東海大学に
次いで2位
- ⑪ 18. 11. 12 (日) バーベキューin葛西臨海公園
昨年までの荒川土手から会場を葛西臨海公園に移し、手
ぶらで手軽にバーベキュー
- ⑫ 19. 02. 09 (金) 新春の集い
◇於：レストラン和泉亭
- ⑬ 19. 02. 25 (日) ボーリング大会
◇王子サンスクエアボウルにて

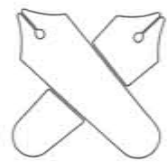
この他
ゴルフ慶早戦 (六大学対抗?)
山梨リニアモーターカー実験線見学 (時速500kmを体験) &
フルーツ狩り、観劇、食味会、七福神めぐりなどなど、みな
さんが楽しく参加できる企画を検討中です。
また、みなさんからのリクエストも大歓迎致します。

◎北区三田会 イベントカレンダー 自 平成17年4月 1日
至 平成19年3月31日

- ① 17. 06. 14 (火) 春の懇親会
◆定時総会 参加：36名
- ② 17. 05. 21 (日) 荒川土手でバーベキュー ◆参加：16名
- ③ 17. 06. 14 (火) 講演会 ◆参加：34名
慶應義塾大学教授 金子郁容先生
「教育改革の潮流と慶應義塾の一貫教育」
- ④ 17. 08. 27 (土) 屋形船の夕べ ◆参加：14名
夕暮れの隅田川を下り、ライトアップしたレインボーブリッジをくぐ
りお台場で夕涼み
- ⑤ 17. 10. 01 (土) 02 (日)
区民祭り参加 稲門会と明大校友会との合同事業
三田会の宣伝を兼ねてKEIOグッズを販売
- ⑥ 18. 03. 02 (木) 初春の集い ◇於：レストラン和泉亭
軽快なジャズを堪能しました。William Silk & Friend Jazz Night
- ⑦ 18. 07. 05 (木) 総会
◇於：東武サロン「天覧の間」北とびあ16階 ◆参加：37名
- ⑧ 18. 08. 24 (木) 国立印刷局
滝野川工場と飛鳥山「紙の博物館」見学会 ◆参加：19名



北区区民まつり



会三田北

題字：安西祐一郎塾長

《MLB Senior Moment》

年寄りの物忘れを英語ではSenior Momentと云うそうだ。うまい言い方だなあって感心していたら、これが此の頃ひどい。或る日「いくつになっても脳は若返る」という本の題を見た。生来、単純な脳細胞の持主である小生は、ならば野球に明け暮れた若き日に少しでも返ろうと、二〇〇六年八月夫婦してMLB六戦六球場巡りをして来た。先ずSan Francisco AT & A Park SF. Giants②対LA. Dodgers⑤。第二戦Seattle Safeco Field SEA Mariners③対NY. Yankees⑥。今回の最も印象的なゲーム。九回裏三番Belreのサヨナラホームラン。イチロー一安打一敬遠。松井故障欠場中。第三戦Chicago US. Cellular Field. CHI White Sox③対Minnesota Twins⑥。ここから一休み。ニューハンプシャー、ヒプロンへ。二十年來の友人ゴードン夫妻の敷地一万五千坪のカントリーハウスで五日、静穏と自然を満喫。近くにはスキー場や映画「黄昏」の舞台、ゴールデンポンド湖。ゆったりした時の流れ、住民の穏やかな笑顔。そして夜の深いしじまの中で、それぞれ個性を主張するかの様に美しく煌々満天の星。肌寒いヴェランダで言葉も無く眺めていた。次は車でボストンへ。第四戦憧れのBoston Fenway Park。Bos. Red Sox④対Toronto Blue Jays④。全米最古最小の球場選手と距離が近く、どこより熱いファン。勝利の瞬間満場雄叫び、ウエー

ブ十回、すごかったのが七十年代大ヒット曲Sweet Carolineの大合唱。さて松坂選手、このファンは強い味方。だけと恐いよー。最終目的NYへはアムトラックで。第五戦NY Yankee Stadium。NY Yankees①対MIN Twins⑥。最後の夜第六戦NY Shea Stadium。NY Mets⑩対Atlanta Braves⑤。終了後、駆足で九十一歳名ギタリスト、レス・ポールのライブ。CDにサインも頂き、ホテル帰着AM一時。かくして十九日間の旅を終えた。わが脳の活性、兆し未だ顕れず。嗚呼…。

二〇〇六年十二月 昭和32年卒 服部 弘

《奈良の昔と書》

岩田 達明 (昭34・政)

ピラミッドの中にいたずら書きがあるそうである。「今どきの若い者は…」遠いエジプトで確かめる術もない。何に書いてあったかも覚えていない。ウソにしてもいかにもありそうなウソだと、独り納得している。

昭和三〇年のこと・カマボコ兵舎の教室で文学部のA教授の日本史の授業が大層な人気だった。空くのを待ちかまえて教室に雪崩れ込んで良い席を確保したものである。

「奈良は歩かなければいけません」先生の話録の一つである。夏の日、奈良を歩きますから宿を教えてくださいと、突然お邪魔して夕飯までご馳走になってきた。

猿沢の池のほとりの「日吉館」に十日近く逗留して、奈良を文字通り歩き回った。一泊二百円に割引してもらって。

唐招提寺では鑑真和上と一米位の距離で直に対面させて戴いた。中宮寺では、美しい尼さんがお厨子の中をアルミの笠の電気スタンドで照らしてくれた。あろうことか弥勒さまに向かつてストロボを焚いて写真を撮った。そして静かな堂内で抹茶をご馳走になった。伎芸天の秋篠寺でもお住持の抹茶のご接待に与った。

森閑とした奈良の寺々の行く先々で心のこもったもてなしを受けた私は、暑い奈良を思い切り堪能できた。このときの暑くて少し埃っぽい静かな奈良が一番印象に深い。

その後中宮寺へ葉書を出した記憶はない。それどころかA先生のお住まいが麻布だったか麹町だったか覚えていない。何しろ住所を書いた記憶が無いのだから。

十九才の夏は二十才の冬と同じように唯の一度きり経験できない。私は程度の悪い今どきの若い者をやってしまったと今臍をかんでいる。

■ 編集後記 ■

最後に、編集委員の怠慢も手伝い、創刊以来二年ぶりの会報となりましたことをお詫びすると共に、今回号発行にあたりご協力いただきました会員はじめ関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

高木 雅章 (昭54・経)

「慶應義塾 創立百五十周年」 「慶應義塾はどう変わるのか」

これからの慶應義塾は、独立して生きる力を一人ひとりの人間が発揮し、新しい多様な価値を創りだしていくことのできる、新たな社会の形成に貢献します。また、協力して生きる力を一人ひとりが発揮し、国際関係や地域や世代などに絡む利害得失や軋轢を超えていくことのできる、新しい社会の形成に貢献します。そのために、アジア全域でもほとんど例を見ない百五十年の歴史を刻む近代総合学塾として、独立して生きる力と協力して生きる力を兼ね備えた人間を育みます。

「感動教育実践」、「知的価値創造」、「実業世界開拓」を国際水準で実現するために、教育先導、学術先導、新実業先導、知識・スキル先導、知的社会基盤先導、キャンパス環境先導の六つの先導項目を立てています。私達塾員が今、いかに慶應義塾と連携してゆけるか、考え行動する時期に来ているのではないのでしょうか。

慶應義塾の目的

福澤 諭吉

慶應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得

ず。其目的は我日本国中に於ける気品の泉源、智徳の模範たらんことを期し、之を實際にしては居家、処世、立国の本旨を明にして、之を口に言ふのみにあらず、躬行実践、以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり。

三田の山慕情

藤枝 一

青い空を見つめる時、昭和二十二年四月の入学式も、昭和二十三年天皇・皇后両陛下をお迎えした時も、昭和二十七年の卒業式も、三田の山の青空の下で行なわれたことを憶い出します。「丘の上には空が青いよ」と謳われる三田の山。入学当時の頃と比べると整備された三田の山。海は見えなくなり、学生時代の面影は少なくなっただけで、我が心の故郷三田の山。共に学びし仲間と共に、三田会の一員としてこれからも頑張りたい。

三田の山永遠に。

